

自己評価書 作成までの道のり

—北九州市立大学の事例報告—



平成28年5月31日
北九州市立大学
評価担当副学長
松尾 太加志

大学の概要

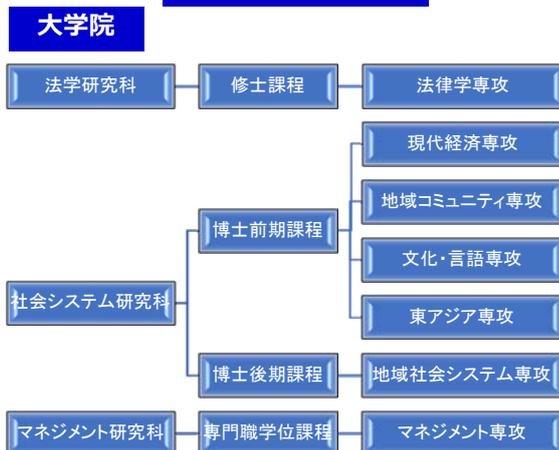
6学部・学群 (15学科・学類)
4研究科

<学生数>

	北方	ひびきの	計
学部・学群	5,031	1,132	6,163
大学院	153	355	508
計	5,184	1,487	6,671

H28.5.1現在

北方キャンパス

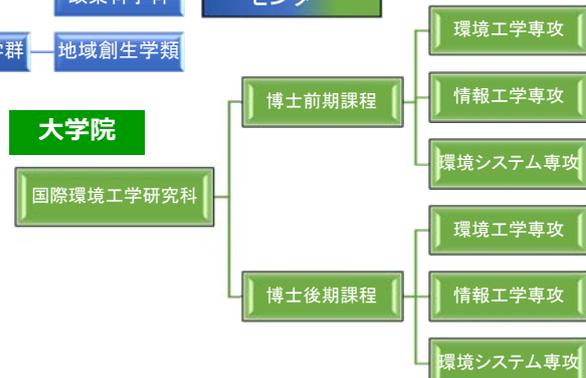


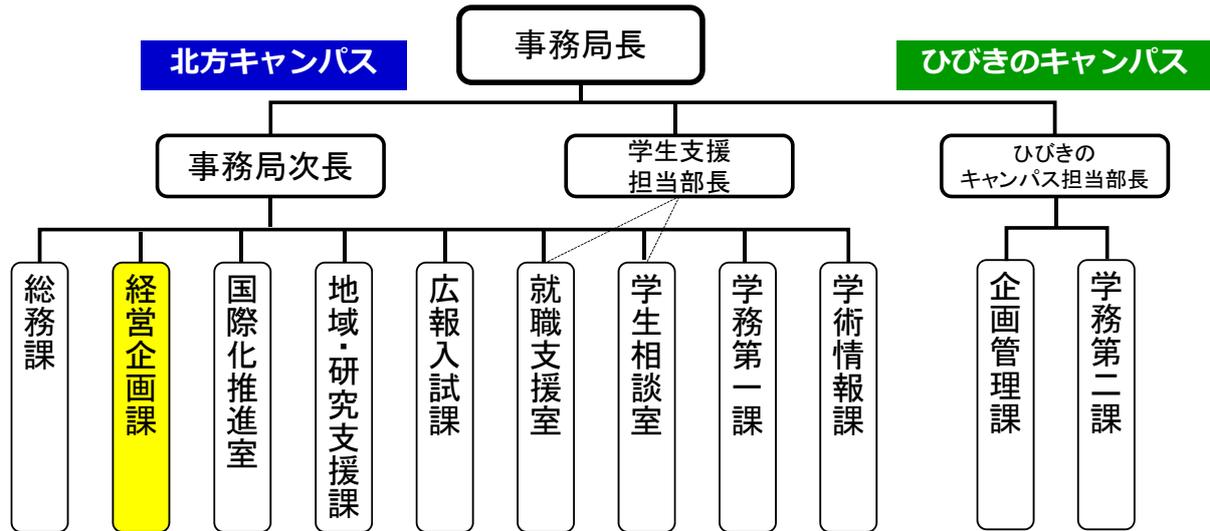
ひびきのキャンパス



基盤教育センター

大学院





↑
認証評価の所管

【H27教員数】

区分	計
学長	1
教授	139
准教授	109
講師	14
助教	1
計	264

【H27職員数】

区分	計
局長	1
部長	3
課長	11
係長	28
係員	170
計	213

区分	計	左記の内訳			
		市派遣	プロパー	契約	派遣・ 出向
部長	3	2		1	
課長	11	7		4	
係長	28	21		7	
係員	170	8	32	126	4
計	212	38	32	138	4

3

北九州市立大学の認証評価 (2015年度)

	受審機関	書面提出	訪問調査	評価結果
大学機関別認証評価	大学評価・学位授与機構	2015/6/26	2015/ 10/13～14	基準を満たしている
選択評価B(地域貢献活動に関する評価)	大学評価・学位授与機構	2015/6/26	2015/ 10/13～14	目的の達成状況が極めて良好である
選択評価C(教育の国際化に関する評価)	大学評価・学位授与機構	2015/6/26	2015/ 10/29～30	目的の達成状況が良好である
経営系専門職大学院	大学基準協会	2015/3/31	2015/ 10/1～2	基準に適合している

4

「自己評価書」を評価していただいた

大学機関別認証評価結果

基準9 財務基盤及び管理運営

【優れた点】

- 事務局体制強化のための組織改正・・・
- 事務職員が教員と共同で・・・
- 平成27年度の認証評価へ向けての自己評価書では、根拠資料・データの適切な提示や問題点の的確な把握を行い、質の高い自己評価を行っている。

5

「認証評価」は一日にして成らず

1. 毎年の蓄積
2. 「認証評価」の体制
3. 自己評価書の作成
4. 改善に活かす

6

1. 毎年の蓄積

- 法人評価
 - 進捗チェック(9月、12月、3月)
 - 年度実績, 年度計画
- Annual Reportの作成
 - 年度単位の情報データ集
- 教育開発支援室での調査
 - 授業評価アンケート等
- 学長と教員との意見交換会(7月頃)
 - 毎年の法人評価の結果と年度計画の説明

内部質保証
の中核

経営企画課
の所管

認証評価
教育研究審議会
も担当

意識の共有

7

2. 「認証評価」の体制

評価基準	実施責任者	事務局
1 大学の目的	副学長(評価室長)	経営企画課
2 教育研究組織		
3 教員及び教育支援者		
4 学生の受け入れ	入試広報センター長	広報入試課
5 教育の内容及び方法	副学長(教育開発支援室長 キャリアセンター長 FD委員長)	経営企画課 就職支援室 学務第一・第二課
6 学習成果		
8 教育の内部質保証システム	教務部長 各大学院研究科長(4研究科)	
7 施設・設備及び学生支援	[施設]事務局長 [ICT]情報総合センター長 [図書館]図書館長 [学生・生活支援]学生部長	総務課 学術情報課 学務第一課 学生相談室
9 財務基盤及び管理運営	[財務・組織]事務局長 [自己点検評価]副学長(評価室長)	総務課 経営企画課
10 教育情報等の公表	事務局長	総務課
B 選択: 地域貢献活動	副学長(地域貢献室長)	地域・研究支援課
C 選択: 教育の国際化	副学長(国際教育交流センター長)	国際化推進室
4~8, B, C ひびきのキャンパス	国際環境工学部長・研究科長	企画管理課 学務第二課

評価室会議

副学長(4名)
学部・学群・研究科長
附属施設等の長
事務局長
評価室副室長

資料提出・情報提供など

外国語学部長
経済学部長
文学部長
法学部長
国際環境工学部長
地域創生学群長
法学研究科長
社会システム研究科長
国際環境工学研究科長
マネジメント研究科長
基盤教育センター長
地域戦略研究所長
地域共生教育センター長
など

8

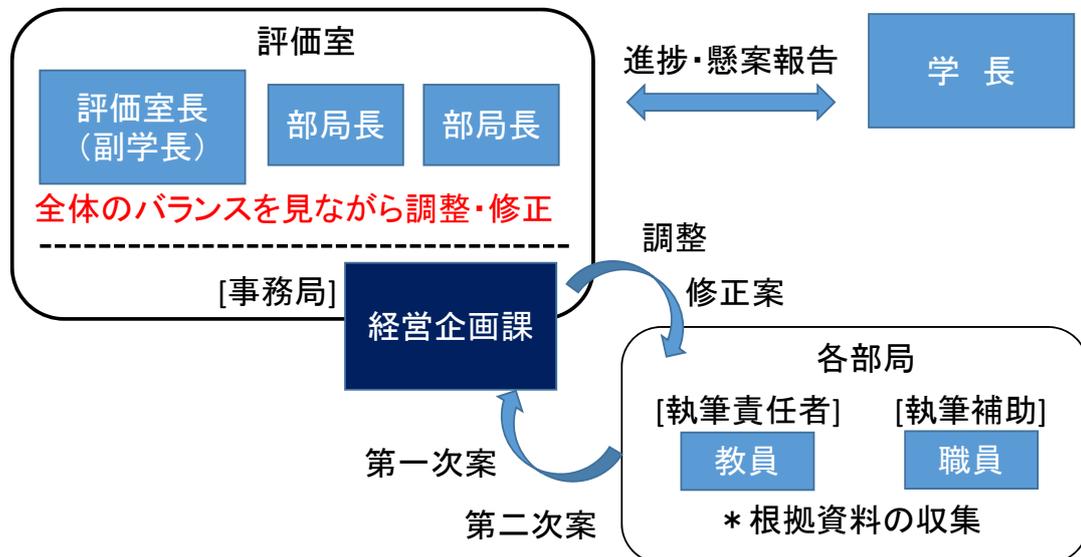
「認証評価」の主なスケジュール

年度	月	全体の流れ	自己評価書等
2013	10	10/22(評価室会議) 受審年度・機関の確認 必要なアンケート調査の依頼	
	11		
	12		
	1		
	2		
2014	3		
	4		
	5	5/27(評価室会議) 実施体制について	
	6	6/3 授与機構説明会・研修会	6/10(学内説明会) 自己評価書作成依頼
	7	各種アンケート実施 ↓	
	8		
	9	9/16(認証評価説明会) 講師: 授与機構鈴木教授	9/26 一次集約締切 各部署との調整
	10		
	11		
	12		
	1		1/27(評価室会議) 自己評価書一次集約版の確認依頼
	2		2/20 二次集約締切 各部署との調整
	3		
2015	4		4/28(評価室会議) 自己評価書(案)の承認 時点修正
	5		
	6	6/26 自己評価書提出	(6/9 教育研究審議会 6/19 役員会・経営審議会 承認)
	7		
	8		
	9	9/15(評価室会議) 訪問調査・面談対象者の人選等	「書面調査による分析状況」、「訪問調査時の確認事項」への回答
	10	10/6,27(評価室会議) 訪問調査に関する説明会	10/13,14,30,31 訪問調査

9

3. 自己評価書作成

自己評価書作成の流れ



10

第一次案で出てきた問題点

- 自己評価実施要項を読んでいない。
- 第2サイクルとしての記述になっていない。
- 「状況」に対する「分析」になっていない。
- 根拠資料が明示されていない。

11

状況と分析を明確に分ける

- 観点に係る状況
 - 事実を書く。
- 分析結果とその根拠理由
 - 事実(観点に係る状況)に基づいて分析する。

状況



分析

12

記載で見つかった問題点

- 第1サイクルのほとんどコピーになっていた。
 - 古い情報が記載されていた。
 - 第2サイクルでの取組の記述がなされていなかった。
 - 参照すべき観点番号が第1サイクルのものになっていた。
- 自己評価実施要項を読んでいない。
 - 「留意点」に挙げてある必須項目を書き漏らしていた。
 - 別の観点で記述すべきところを記載していた。
- 「観点到に係る状況」と「分析結果」が明確に分けられていない。
 - 「観点到に係る状況」に書いていないことを「分析」していた。
 - 「観点到に係る状況」で記述すべき内容を「分析結果」として書いていた。
- 根拠資料が明示されていない。

13

評価者の立場を考えて書く

- 外部の人が読んでわかる記述に。
- ポジティブな印象を与えるような記載を。
- 評価しやすい記述に。
- 問題点も明確に記載。
 - 良い点と問題点の両方を明確に(両面提示)。

14

評価者のことを考えて書く

- 受審する側
 - 自己評価書を書くのは大変
- 評価する側
 - 評価結果を書くのも大変

自己評価書

評価者が評価結果の文章を書きやすいように自己評価書に記載

評価結果書

自己評価書の文章を参考に評価結果の文書を作成

15

評価者はいいところを

- 評価委員も大学の教員
 - 大学の置かれている諸課題の共通認識は持っている.
 - 貶めてやろうとは誰も思っていない.
 - 各大学の良いところを見つけようとしている.
- 安心して、各大学の課題を挙げること
 - 課題を見つけ出すことが自己評価の本質.

16

注意すべき点

- 自己評価実施要項と照らし合わせる
 - 各基準の観点で何が求められているか？
 - 留意点を確認する.
- 根拠資料と対応させる.
- 第1サイクルのままになっていないか？
- 第2サイクルでの取組の記述になっているか？
- 自学にしかわからないような記述になっていないか？
- 評価者が評価しやすいような記述になっているか？
- 「分析結果とその根拠理由」が「観点到に係る状況」に対する分析になっているか？

17

根拠資料

- 毎年の蓄積が大事,
- 認証評価のために新たな作成も可能.
- アンケートの実施
 - ステークホルダーの意見は根拠資料として説得力がある.
 - 実施にあたっては, できれば調査の専門家に.

18

主なアンケート調査

アンケートの種類	実施時期	主として対応する基準や観点等
学生生活アンケート	H26.6	5-2-②, 5-5-②単位の実質化 5-2-③, 5-5-③シラバス 5-3-③, 5-6-③成績評価 5-5-⑥院の指導体制 6-1-②学習成果 7-1-③図書館, 7-1-④自主的学習環境 7-2-①ガイダンス, 7-2-②学習支援, 7-2-⑤生活支援
OB・OGアンケート	H26.7	6-2-②学習成果(卒後)
学習成果アンケート	H26.4	6-1-②学習成果
卒業・修了時アンケート	毎年3月	5-4-③教育課程, 6-1-②学習成果
入学者アンケート	毎年4月	4-1-④APの検証
授業評価アンケート	毎学期末	5-2-③シラバス, 6-1-②学習成果
就職先アンケート	H26.6	6-2-②学習成果(卒後)
地域貢献活動アンケート	事業ごと	選択評価B「地域貢献活動」
留学生に関する調査	H26.1	選択評価C「教育の国際化」, 7-2-②学習支援
サークルアンケート	毎年4月	7-2-④課外活動

19

意見を聴取したエビデンスに

- 観点8-1-②: 大学の構成員(学生及び教職員)の**意見の聴取**が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。
- 観点8-1-③: 学外関係者の**意見が**、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。
- 観点9-2-②: 大学の構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する**意見やニーズが把握され**、適切な形で管理運営に反映されているか。



アンケートの実施

20

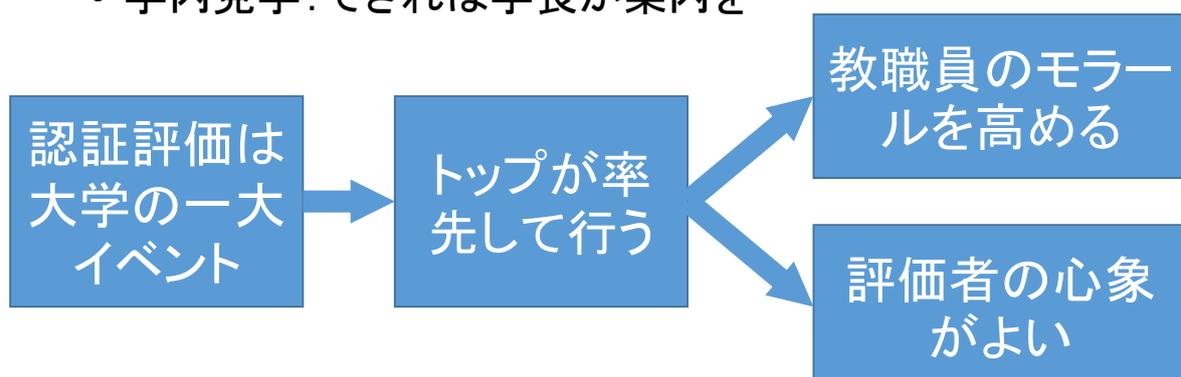
こうすればよかった

- 執筆担当者に要綱等の当該ページのコピーを
 - 実施要綱を渡しただけではダメ.
 - 渡す資料が膨大になると見てくれない.
 - できれば学内用の簡単なマニュアルを作成.
- チェックリストを作る.
- データベースの活用
 - 根拠資料となるデータの蓄積
- IRの活用

21

トップ(ボス)が率先して

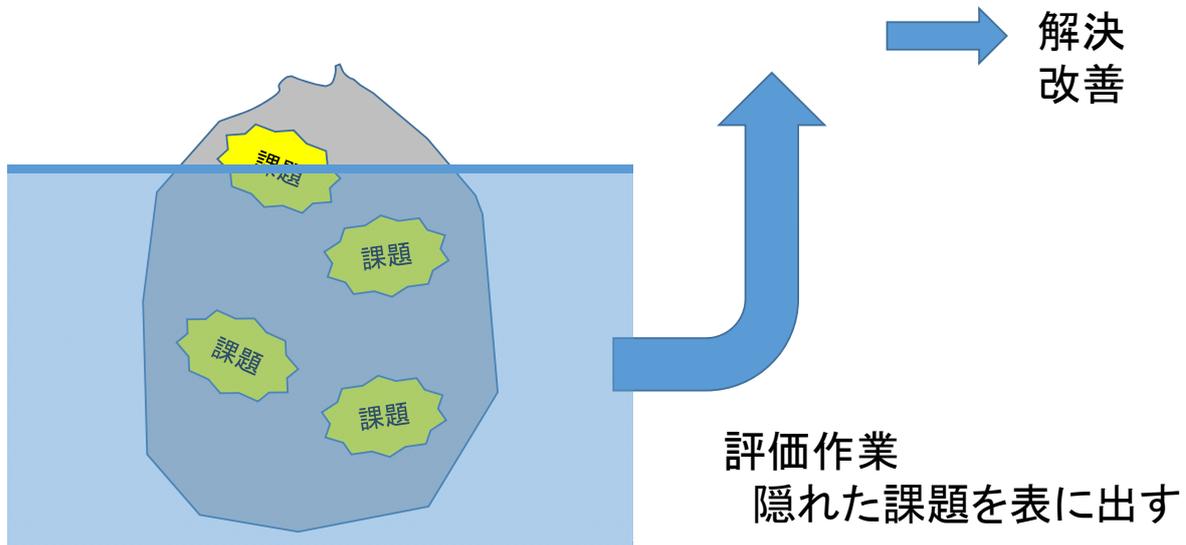
- 自己評価書
 - きちんと目を通して確認を.
- 訪問調査
 - 教職員との懇談では、トップが中心で質疑に答える.
 - 学内見学: できれば学長が案内を



22

4. 改善に活かす

完璧なシステムは存在しない



23

認証評価結果を改善に活かす

第1サイクル(2009年受審)【改善を要する点】

- 基準4 学生の受入：学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低く、大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。 → **定員の見直し**
- 基準8 施設・設備：北方キャンパスの図書館は多くの学生、教職員に利用されているが、すでに飽和状態に近く、整備 拡充が必要である。 → **新図書館の建設**

第2サイクル(2015年受審)【改善を要する点】

第3期中期の課題

- 基準4 学生の受入：大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。
- 基準7 施設・設備及び学生支援：平成27年度においては北方キャンパスには外国人学生が入居できる寮がないなど、受入学生をサポートする施設・設備が十分でない。

24

次期中期計画策定のために

中期計画5年目に受審

第1期中期						第2期中期						第3期中期					
2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価	法人評価
						← 6年ごと →											
						↑ BS ← 5年ごと → BS											
						↑ 機関別											
						↑ 機関別											
						↑ BS 予定											
						↑ 機関別 予定											

25

大学評価文化(私見)

- メリット
 - 評価を改善に活かす
- デメリット
 - 評価が目的化してしまう
 - マニュアル的に実行してしまう



メタ評価(?)が必要
評価活動が有効に活用されているかを評価する

26